

枝ぶりのよい千ヨコシト

今年こそよい年と思つていたが

その付は前年並に川が厚い

御年上より寒さだ

かせをひきそうに取つてしりた

くしやがとまうが

かせ菜豆の巾着いが 布園かろ去るけれ

さうさの 十六歳だが この石は寒かた

か 思ひすうて菜豆のむ

やれくと思つたろ 完取原 又しやし

花新か原、一月にして花物おとんびいさ

書言つていた

よいニともあるはず

二月十四日の心しこたいの千ヨシト

見つけたくてカクログを見よと

バルギー スイス ドイツ フランス 製

各々ヨシトメノカ、ホテルオオク

帝園おろも なくさんおしり

どれも石のしそくが

昔同いさうで なくて花がうか多い

若い女は花がよろこびそろそろ春のぼけ
 見よのたつかれとそつた
 マゴの津巻日お近いのてさだしほじのた成
 今ヨコしとひとつさがちりも 大妻だ
 宜電しといふ今ヨコしとほ申し
 校席ぶりのふん今ヨコしととし
 本場の木の枝のさうさの直本見つやか
 ひとと五日片とて来る

2020
1/18